

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 土木計画学におけるガバナンス問題	
日付 : 6 月 6 日 (金)曜日, セッション時間 : 17 : 30 ~ 19 : 00	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 福本潤也(東北大学) 大西正光(京都大学) 羽鳥剛史(東京工業大学)	
討 議 内 容	セッション全体 : <ul style="list-style-type: none"> ・ ガバナンスの問題を考える上では、タイムスパンや問題の対象範囲をどこに置くかによって、問題の構造が大きく変わる。システムのどこを見るか。 ・ 生命の本質は何か。数学的な道具立てはない。基本的には、古典的な道具立て。 ・ 生物の進化論の立場からすると、制度設計は、コントロールしたいという意図に基づいている。また、制御に使えて、初めて、自分たちの問題がはっきりする。意図をもった働きかけが重要である。具体的な技術として使用されて、はじめて、そのガバナンスのメカニズムが分かる。 ・ システムを極大にとっても、意図はその外側にある。それが存在しないと考えるのが進化論。
	(発表番号) 発表者名 (所属) : (49)SOUKSAVATH Soulivanh(立命館大学) <ul style="list-style-type: none"> ・ この戦略は、ラオス以外の国にも適用可能であるのか。何がラオスの特徴か。
	(発表番号) 発表者名 (所属) : (50)寺西裕之(京都大学) <ul style="list-style-type: none"> ・
	(発表番号) 発表者名 (所属) : (51)吉田護(京都大学) <ul style="list-style-type: none"> ・ 53 の発表に対して、どのように自己弁護されるのか。(→真面目にやっている人が損をすることを如何にして防ぐのか、それを考えるのが、本研究のスタートライン。制度を導入することによって、あるリファレンスポイントを与えることが出来るのではないか。) ・ 設計段階ではなく、施行段階ではどう対応するのか。(→Audit による対応が考えられる。ただし、本研究の枠組みは、施行段階では適用し難い。)
	(発表番号) 発表者名 (所属) : (52)後藤雄太(東北大学) <ul style="list-style-type: none"> ・ 予測市場を導入した場合、政府の役割とは何か。(→モデルの中では、特別考えていないが、評価委員会の選定において重要な役割を果たすと考える。) ・ 大衆性の問題から逃れられない。(→今回の研究の位置づけ、今までの制度との相互関係を明確にして、提案制度の意義を検討する。) ・ 市場において、参加者の情報は独立と考えるか。みんなの予想を予想する、という状況が考えられる。
	(発表番号) 発表者名 (所属) : (53)藤井聡(東京工業大学) <ul style="list-style-type: none"> ・ ペナルティのようなものが悪影響を及ぼす。どこに境界を引くのか。